

田布施町横断歩道橋（新生橋）個別施設計画

長寿命化修繕計画



令和 5年 3月

田 布 施 町

1. 目的

田布施町が管理する新生橋（横断歩道橋）に関して、点検および修繕計画を定め、適切な維持管理を行う事により通行、交通の安全確保に努め、中長期的な維持管理費の削減や予算の平準化を図ることを目的とする。

2. 対象施設

名称・建設年	新生橋 ・ 1975年（昭和50年）
構造（形式）	鋼構造（横断歩道橋、跨線橋）
路線・所在	町道三本松長合線 ・ 田布施町大字波野地内
延長・幅員	121.7m ・ 3.1m

3. 計画期間と定期点検時期

定期点検を5年に1回とし、点検間隔が確認できるように計画期間は10年とする。なお、点検結果により、適時計画を変更する。

計 画 期 間									
R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
点検結果により 補修・修繕		点検	点検結果により 補修・修繕				点検	点検結果により 補修・修繕	

定期点検結果の判定区分は、横断歩道橋定期点検要領（国土交通省道路局平成31年2月）により、下表のとおり区分し健全性を診断する。

区 分		定 義
I	健全	横断歩道橋の機能に支障が生じていない状態。
II	予防保全段階	横断歩道橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	横断歩道橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階	横断歩道橋の機能に支障が生じている、または生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

4. 維持管理及び対策の考え方

点検結果を踏まえ、効率的な維持を行い予防保全型の維持管理によりライフサイクルコストの縮減を図る。

対策は横断歩道橋の健全性や、第三者への影響（利用者、JR山陽本線通行列車）、路線の重要度や交通量などを実情を総合的に勘案し判断する。

5. 横断歩道橋（施設）の状態

新生橋は、JR 山陽本線を高架する横断歩道橋であり建設後、47年経過しており、令和4年度（2022年）の法定点検の結果では、主桁端部に著しい腐食、支承鋼材部に断面減少を伴う腐食が見られ、早期に補修対策工を実施することが望ましい状態である。

健全性の診断

判定区分	所 見
Ⅲ	近接目視により点検を行い、主桁端部、支承部に著しい腐食がみられ、早期に措置を講ずべき状態である。

6. 対策内容と実施時期

令和2年度に雨水排水管の清掃交換、塗装の剥離部の補修を行った。
また、点検結果により新生橋（横断歩道橋）の修繕計画は下記のとおりとする。

R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
部分補修		点検	補修設計	補修工事 （塗装塗替工、橋面防水工等）			点検

7. 対策費

対策内容及び対策費は、修繕設計により横断歩道橋の状態を十分に把握し、対策範囲や規模など対策の目的を満足する範囲で、経済性・社会性等を考慮し決定する。また作業の効率化や費用削減効果が見込まれる新技術の活用を検討する。合わせて利用頻度を考慮し、地元住民等と調整しながら部分撤去の検討も行う。

8. 新技術の活用及びコスト削減

維持修繕において、修繕等の作業の効率化や費用削減の効果が見込まれる新技術等の活用を積極的に検討します。

また、新技術等を活用した新材料や新工法等を活用することで、5年以内に費用を2万円程度縮減することを目標とします。

※ 新技術とは、新技術情報提供システム（NETIS）や点検支援技術性能カタログなどに掲載された新技術工法のことをいいます。



ドローン(UAV)
(NETIS登録番号：KK-220067-A)



車両設置幅1.8mの道路施設点検車(YZ30FCSB)
(NETIS登録番号：HR-200003-A)

写真8.1 新技術活用検討例

9. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

- 計画策定担当部署
田布施町役場 建設課 TEL:0820-52-5807
- 意見を聴取した学識経験者等の意見知識を有する者
徳山工業高等専門学校 土木建築工学科 教授
島袋 淳 : 博士(工学)